

「不登校・ひきこもり」—いま親は子どもとどう向き合えば良いか—

谷町こどもセンター 臨床心理士 西井 恵子



西井 恵子 (にしい けいこ)

平成11年 臨床心理士資格認定(資格認定初年度)。平成4年 大阪市中央児童相談所 嘱託カウンセラー...平成9年まで。平成6年 谷町こどもセンターカウンセラー。平成8年 大阪市スクールカウンセラー

平成11年 大阪府教育センターカウンセラー。平成12年 相愛大学非常勤講師。平成13年 養護施設「子供の家」嘱託心理職員。

論文等：

- 『梢の事例』(「来談者中心療法」ミネルヴァ書房 2003年)
- 『ロジャーズの三条件を満たすということ』-「体験から学ぶ心理療法の本質」(創元社 2002年)
- 『不登校中学2年女子の母親面接』-「臨床心理士のスクールカウンセリング2」(誠信書房 1998年)
- 『知恵遅れの子どもの心理療法』-「発達とカウンセリング」(ミネルヴァ書房 1994年)・・・他
- 『子どものこころ百科』[単元分担](創元社 2002年)
- 『カウンセリング辞典』[単元分担](ミネルヴァ書房 1999年)

「平成」という時代

今、平成21年ですから平成生まれの方の最高年齢は、21歳ということになります。しかし、私が関係している養護施設では、平成生まれのお母さんが子どもを預けているケースがあります。当該養護施設では、2歳から入所可能ですので、若くして16歳・17歳で出産したような場合は親も子どもも平成生まれということとなります。また保育園などに講演に行った際にも赤ちゃんを抱いた平成生まれの若いお母さんも見受けられます。

私が関わってきた昭和生まれの子どもたちと平成生まれの子どもたちとは、色々な面で状況が変化してきており、そのことを私も実感しております。

平成という時代の特徴を臨床心理士という視点から、即ち、現実には色々な問題や症状を抱えた方と接している臨床心理士という仕事柄からいいますと、平成という時代は「二極化した時代」という風を感じております。具体例を挙げますと、いろんな本の題名にもなっています。「上流社会・下流社会」とか、「非常に上昇志向の強い人とニート・ワーキングプアと呼ばれる状態の人」や「勝ち組・負け組」という風な言い方をした場合とかのように、非常に二極化したような状態になっているように思います。そして、相談に来られ

る方を見ていると、大人も子ども含めて、自分は「負け組」だという思いを持ってられる方が多いと思います。

また価値観が多様化した社会とよくいわれていますが、そのいろんな価値観の中で、中心となっているのが「お金」だということも平成の特徴です。即ち、「お金さえあれば...」、「お金儲けのためなら何をしてもいい...」というような風潮が世間にまん延していた時期がありました。ホリエモンに代表されるようにお金儲けのためなら、何をしてもいいのだという印象を子どもたちに強く与えています。今ひきこもっている子どもたちの四分の一程度は家にいたままでも金儲けはできる。パソコンさえあればと思っています。軍資金さえあれば株を運用し、金儲けをすることを狙っている子どもたちもいます。

昔ありましたように、何でも「損得勘定」を判断基準にする考え方、即ちこれは得やからする。これは損やからしないというような考え方、現実の中学・高校生の間関係でも見受けられます。あいつと付き合うと得やから、また逆にあいつと居ると損やからという感覚で、友達関係が動くような時代になってきています。もちろんあいつのこういうところが好きやから、あいつとは気が合うからというような感覚から友達関係を持つ場合もありますが、前者のような場合もあるのです。昭和の懐かしい「清貧」という言葉は死語となってしまったのかと思う程に、ブランド物を着飾った高校生もよく見受けられます。このような時代に今の子どもたちは生きているのです。また家庭を振り返っても、「何でも買ってあげましょう!」、「全てやってあげましょう!」というような過保護の家庭と「何もしない!」、「おしめも替えない・食べ物も与えない!」というネグレクト(育児放棄)の家庭とが併存しています。平成の時代はまさしくこのような時代なのです。

私が育った昭和の時代はある意味では良かったかも分かりません。何故なら、昭和の時代は、日本の経済は右方上がりでした。頑張れば何とかなる。頑張れば勉強すれば、頑張れば働けばそれなりの成果を得られると、疑いもなくみんなが認識し得た時代でした。現在はどうでしょう。世界の経済も、日本の経済も右方

上がりの状態ではなく、不透明な時代です。頑張ったからといっても、そのことが必ず将来を保証するという安定感を子どもに与える時代ではないのです。また、頑張っていたお父さんが、リストラに遭うということを目の当たりにする時代なのです。昔の努力が報われた時代はある意味では夢が持て、幸せだったかも分かりません。他方、現在の子どもたちは、夢を持ってない、即ち、自分でどんなに頑張っても何が起こるか分からないと認識し、希望や夢を持つことをそれほど真剣に思わなくなっているのです。このことは多くの中学生・高校生が思っています。

現在、お笑いブームといわれ、若い人もお笑いの好きな方は沢山おられます。特にお笑いのフリートーク的な番組を見ますと、「速い反応」を求められています。話をフラれたら、すぐギャグを交えて即答する。この様に対応できることが、良しとされ、格好良いとされています。すぐに反応できなかった場合、「どんくさい」、「何やってんねん」等の叱責が飛んできます。しかし、そのときに深く考えることが、本当に悪いことなんでしょうか。その番組的なテンポはくずれてしまっていますが、フラれた内容によっては、グッと考えることは、あながち悪いことばかりではないと思います。(中略)

今の感覚からは、「無駄だ」、「時間の浪費だ」と考えられている中にも色々学べる事柄があるということも事実なのです。このことを見逃しがちな、速く、速くという風潮が平成の時代はひとときわきわだっています。このような風潮の時代の中で、基本的な「人間関係」が薄くなってきています。それは親子間、隣近所、いろんな関係に於いて人間関係の付き合い方が変わってきています。

小学校等で講演させていただいたとき思うのですが、最近言われています、「モンスターペアレント」(学校に対して自己中心的で理不尽な要求を繰り返す保護者を意味する和製英語です。当然のことながら、常識の範囲を逸脱しない要求を行う保護者は含まれません)が実際に居られます。すごい方が.....講演の後の質問の時間に、そんなことを学校に言ってくる保護者がいるのかと疑いたくなるような方が居られます。

昔は「お互い様」という意識が有り、物事の判断においても情勢を深く感知し、決定する余裕・ゆとりが有りました。(中略)

見える部分・見えない部分

- 「行動・症状」と「こころの動き」

今の子どもたちは、色々述べました前記の平成の時代に生きているのです。本日のテーマである「不登校・ひきこもり」は状態を表しています。不登校は学校に行かない状態を言い、ひきこもりは家から出ない、或いは部屋から出ない状態を言っています。ですから、

他の「神経症」や「統合失調症」という診断名とは別の括りになります。「不登校・ひきこもり」はあくまでも状態を言っているのです。同じ「不登校・ひきこもり」と言っても色々中身が違ってきます。従って、家の子どもは不登校と、一つの範疇(カテゴリー)にまとめてしまうと、色々の違いがあるので、まとめきれないのです。

1番目の類型として、例えば、保護者の方は「家の子どもは何もしないのです」とよく言われますが、「何もしていないのですか」と問いただすと、大概是親が望むような学校に行くとか、勉強をするというように、何か自分自身にプラスになること、別の言い方をすれば、「生産的活動」をしていないという意味で、何もしていないと言っているのです。逆に当該本人に言わせればしている気持ちになっているのです。インターネットで買い物をしたり、ゲームをしたり.....

しかし、親からみれば、プラスになることをしていないと言う意味で何もしていないと言っているのです。この言い方の中に既に、保護者の方の不安が感じられると思います。この不安が曲者なのです。世間ではよく不登校について、「長い人生の中の1年や2年、そんなに問題にしなくても...」というようなことをよく聞きますが、このことは何等、不安の解消にはなっていないのです。即ち、不登校が、本当に1年か、2年で終わるなら解消になるかも分かりませんが、いつ終わるか分からないということが、不安なのです。いつ終わるか分からない中で、1日を過ごすことは非常に辛いことです。

次に2番目の類型として、もう少し何もしていないタイプ、インターネットもゲームもしていない状態の不登校・ひきこもりの子どももいます。一日中家の中に居ますし、ぼんやりとして過ごします。また1日中寝ているという子どももいます。そして、このような状態に加えて、時折暴力をふるうことが加わってきたときに、一緒に暮らす家族にとって、耐えにくくなってきます。特に兄弟が居られるケースの場合、より深刻になります。

3番目の類型として、当該子どもにとって、独特の何かこだわりがあって、動けないという子どもも出てきます。手洗い用の石鹸を一つ全部使い終わるまで、その子の手洗いは終了しない.....

4番目の類型として、何時もブツブツ文句を言う。色々なこと、例えば、世の中全般、お父さん、お母さん等に関してブツブツ文句を言うのです。

大体このような状態の子どもに類型化できます。そして、全体的な特徴を挙げれば、生きていくうえで、最小限(会話等も)のことしかしらない子どもも多いです。これは男女を問いません。男の子の場合、昼間はひきこもって、夜出かける子どももいます。もちろん女の子もいますが.....私は基本的には心理相談室で働

いていますので、昼間ひきこもっている子どもに会うことが多いですが、鑑別所・少年院で子どもと会う臨床心理士の方にとっては、子どもたちの入所前の不登校の実態は**昼間繁華街を徘徊するタイプ**で、およそひきこもりなどは想定されません。

このように、ひきこもり・不登校といっても色々な「**行動・症状**」があり、これらのタイプに応じて、「**心の状態**」があります。

心の状態の類型化として、第1に「**ウツの状態**」といわれる状態にある子ども。特徴としては、**疲れた、疲れた**というような感覚、**自分自身が何事においても悪い**というような感覚(自己嫌悪)や**何とかせねば、でもどうしたらいいか分からない**…という状態があります。これが昔から言われている不登校の子に該当します。即ち、**ウツタイプの子の不登校**です。また対処法としては「**何も言わずにほっときなさい**」でした。

第2は「**未熟な**」状態です。**社会性が未熟**、即ち人とのコミュニケーション(意思疎通)がへた。具体的には自分のことを相手に伝えにくいし、また逆に相手のことも分からないのです。そして、**精神的な未熟**(自分をコントロールすることが未熟)な状態も該当します。別の言い方をすれば、多少のことは我慢するというような感覚が弱いのです。これらのことの原因の一つとして、「**少子化**」による対人関係の訓練不足などが挙げられます。この訓練不足を解消しようとする試みが、学校不適應による不登校に対処するフリースクールです。第3は**精神的疾患**の場合です。一過性であるウツの状態ではなく、ウツ病、統合失調症などの病気の状態です。このように3つの状態に分類することができます。

周りができること・本人がすること

周りができる大事な姿勢は「**見守る**」ということです。見守るといって何もなくて、ほっておくというイメージを持たれる方がいますが、「**見守る**」ということは、字のとおり、見て守るということです。色々な心配を持ちながらも、じっと待ってやるというような感じ… 例えば、赤ちゃんがヨチヨチ歩きはじめたときに親がその赤ちゃんを見ている際の感覚です。思春期の子どもを見守る感じをお伝えするのに、私の知人の沖縄の方の話をさせていただきます。少年の頃、

不発弾の事故で目を負傷し大学3回生のときについて失明されます。相当に落ち込まれたのは想像に難くないでしょう。自分を慰める気持ちもあって、杖をつけて歩けるようになってからは時々浜辺に出かけて、海の音や潮の香りの中に自分の身を置き、海によって自分が癒されていたと言います。その彼の後を、お父さんかお母さんのどちらかがずっと後をついていかれていたそうです。当時の彼はそんなことは全く知りません。気づくはずもありません。彼がこの事実を知ったのは、大人になって自立したとき、兄弟から聞かされたのです。親御さんにしたら(自殺するのではないかと)の心配からの行動です。自分達の不安にかられて「海に行くな」とは言わずに、その行動を止めずに、彼の様子を「**見守って**」おられたのです。何も言わずに。恩にも着せず。この場合、「**子どもの後をつけること=見守り**」と安易に考えないでください。**親の不安から子どもの行動を止めてしまわないことの大切さをお伝えしたいのです**。余計な手を出さず見ていることが守りになります。何もしていないではありません。親として自分の不安に耐えているのです。難しいことです、実際は。

本人には、悩んでもらうことが必要です。悩んで困りながらもこれからどうするかを考えていく…それが本人のすることです。実際に子どもは悩んでいます。ゲームをしながら、寝たり起きたりしながら、お笑い番組に大笑いしながら、その一方で悩んでいることは多いのです。行動だけでは分かりません。分からなくなったら、友人でも親でも誰かに相談することです。相談できることは変化できることでもあります。

それから、**原因にあまり執着しない**ということです。初期の段階では原因を取り除くことによって解決するのですが、事態が進んでいったときには、原因を除いても解決しなくなります。要は犯人探しをしてもしょうがない。今後どのように対処するのが、問題解決のうえで、一番適切かということを考えなければなりません。

カウンセラーは親、本人と一緒にこの状態から何をしていくのが、一番いいのかを考えているのです。

個人情報への配慮として、具体的な対応について、講演では事例を挙げての説明でしたが、紙面に掲載することはご遠慮させていただきました。

西宮カウンセリング研究会 一人で悩まずに！西宮カウンセリング研究会へどうぞ～心の相談室～

西宮カウンセリング研究会は昭和40(1965)年に中央公民館で開かれた、カウンセリング基本講座で勉強した者が学習したことをお役に立てたいと思って生まれた会です。カウンセリングとは、「困ったとき」「悩んでいるとき」(自分自身・家族・子供・職場・近隣などで)その人のお話し相手となり、一緒に考えることです。カウンセリングを受けるとその人の中にある考えが整理出来、解決や決断を見つけれられる一助となります。身体の病気で予防や早期発見・早期治療の叫ばれている今日「**こんなつまらないこと**」などためらわずお出かけになってみませんか？

当会の活動のうち「**悩みの相談**」に関しては
費用：無料。ご相談に関しては秘密を厳守いたします。
利用方法：下記へお電話、又は直接おいでください。

とき	ところ	連絡受付者電話番号
第1、3、4月曜 13:00～16:00	ブレラ西宮内 中央公民館4F (西宮高松町4-8)	八木 さゆり 0798-72-8456
火曜 13:00～15:00	社会福祉会館4F (西宮津門川2-28)	中村 紀子 0798-33-6640
火曜 13:00～16:00	甲東公民館2F 第二集会室 (西宮市上甲東園2-11-60)	出口 啓子 0798-53-7422

平成20(2008)年度

ご応募ありがとうございました

第10回 家族の絆 『フォトコンテスト』

特選
お宮参り



待望の男子誕生。親子5人でお宮参りに行きました。ポーズをとる長女もカメラに向かって一瞬走り寄ってきました。(2008 3 20 護国神社)

「家族だよ 全員集合!」をテーマに家族の絆フォトコンテストを開催しました。平成20年7月22日～9月19日まで作品を募集し、61名の方から82作品のご応募をいただきました。

審査の結果、入賞されました5作品をご紹介します。

ほのぼのした家族の写真を見ながら、大切な家族のことを思い出したり、家族の絆を感じたりしていただけたら幸いです。

また、家族の絆フォトコンテスト受賞作品展を下記日程で行いますので、ぜひ会場でもご覧ください。

日時：平成21年3月17日(火)～22日(日)

10時～17時(最終日は15時まで)

場所：市民ギャラリー(西宮市川添町15-26)

「ユネスコ世界児童画展」会場で併設展示します。

*受賞作品は、西宮市ホームページ(<http://www.nishi.or.jp/>)でもご紹介しています。

入選



休日の夕暮れ

休日の夕暮れに家族で夕日を見ました。お父さんは毎日帰宅が遅いので日曜日だけが全員集合の日なのです!

(2008 9 7 伊丹スカイパーク)

入選



川で川の字

「あ～きもちい～」料理好きのお父さんがこの間にみんなのごはんを作ってくれています。あー幸せ!!(2008 8.11 兵庫県朝来市魚ヶ滝荘キャンプ場)

入選



今年も元気で会えました

一年に1回お盆にみんなで集まります。年々増えるのが楽しみです。

(2008 8.15 矢上小学校分校)

入選



明日に向かって

娘夫婦と孫娘、健康で誠実に育って貰いたいとの願いを込めて撮影しました。

(2007 9.17 有馬富士公園)

情報 あ★ら★カルト

★わくわく実験! 子育てフェスタ♪

日時：4月29日(祝)10:00～15:30

会場：西宮市民会館・大会議室(阪神西宮駅・東出口すぐ)

弦楽アンサンブルコンサート G線上のアリア 他

科学実験 ロケットで遊ぼう! 爆発の実験(どっか～ん)他

おもちゃづくり 回転式ポリロケット 紙グライダー ベっこう飴 他

参加費：無料(おもちゃづくりは一人500円)

対象者：小学生以上の親子(祖父母)・子育て支援関係者
先着 200名

申込み：父親サポート関西

FAX 0798-64-6450 TEL 080-5309-5208

編集後記

春号は西井 恵子先生に「不登校・ひきこもり」という演題でご講演いただいた内容を掲載させていただきました。子どもを「見守る」ということがどのようなものなのか、ヒントになりませんでしたか……

私の編集はこの春号で最終となります。夏号からは新しい担当者が編集させていただきます。(M生)